

# ♪ 月わが家のアイドル ♪



寺池台  
東矢 弥怜ちゃん(1歳)  
おてんば娘です。そんな弥怜ちゃん  
が大好きだよ。



久野喜台  
脇 琉那ちゃん(8カ月)  
ママとパパのところに生まれてきて  
くれてありがとう♡



桜ヶ丘町  
山本 莉望ちゃん(1カ月)  
これから色んなところにお出かけし  
ようね♡

## みんなの広場

## 寿 100歳おめでとうございます! 寿

宛先

584-8511  
富田林市役所  
情報公開課広報係  
常盤町1番1号

わが家のアイドル(対象年齢は4歳未満、兄弟・姉妹と一緒に写っている写真でも可)は、写真に、メッセージ(20字程度)を添え、住所、保護者とお子さんの名前(ふりがな)、撮影時の年齢(月齢)、電話番号を記

入し、封書で上記の宛先まで応募してください。また、市ウェブサイトからもご応募いただけます(右図のQRコードから応募ページにアクセスできます)。なお、今応募された場合、掲載は約5カ月後になります。



9月3日、100歳の誕生日を迎えられた西野 美津子さんを訪問しました。手先が器用で、折り紙で作った格子柄を見せていただきました。



9月10日、100歳の誕生日を迎えられた伊藤 なつさんを訪問しました。ご家族と施設の皆さんにお祝いされ、素敵な笑顔を見せておられました。

## 川柳

富柳会 山野 寿之選  
今月の宿題「消」

秀句

騒音で消されてしまう真の声

不動ヶ丘町 佐野 節子

△選評V少数の真の声はややもすると騒音で消されてしまう。真の声を作者は胸を張って真と言いつつ続けます。多数決は決して正しくないと言いたいのかな。十七音字でこんなに深いことを言える。これが川柳の楽しい所かも。

半世紀胸に秘めてたお下げ髪

山手町 笹原 秀計

消えた言葉思い出させる脳回路

小金台 岡野 安希子

願望が日々消えつつもまたあらた

須賀 奥井 やすえ

胸の内消すに消せない罪ひとつ

津々山台 前田 トシ子

ありがとう消えてく家具に感謝して

新家 森井 満海

消したきや鏡にうつる吾が姿

彼方 西尾 たみ子

昔ばなし昭和も消えて逝く悦子

選者 吟

※11月号は「短歌」を掲載します(なお、応募は9月30日で締め切りました)。

川柳・短歌は、それぞれ別のはがきで応募してください(1人各5点まで)。市内在住の人で未発表のものに限り、作品の漢字や氏名には必ずフリガナをつけてください。

令和2年1月号の「川柳」(宿題「散」)は

11月30日(土)、2月号の「短歌」は12月31日(火)までに応募(いずれも必着)してください。

宛先は上記をご覧ください。

# あなたの暮らしに図書館を！

今年もおたのしみ袋の貸し出しを実施します！

## ●おたのしみ袋とは

おたのしみ袋とは、図書館司書がテーマに合わせて、おすすめの本を中身が分からないように袋に詰めて、貸し出しをする取り組みです。

図書館にはさまざまな素敵な本があり、普段自分が手に取らないような本と出会い、本の楽しさを知ってもらうために始めました。

2017年の冬休みに子ども向けに実施したところ、好評だったことから、翌2018年には秋の読書週間に合わせて大人向けも実施しました。

## ◎子ども向きおたのしみ袋

冬休みに子どもたちに本を読んでもらおうと始めたおたのしみ袋は、1つのテーマで本を3冊詰め込んでおり、テーマには「かくれんぼ」や「世界一」などがありました。

年齢別（幼児向き、小学1・2年生向き、3・4年生向き、5・6年生向き、中学生向き）に合わせて中央・金剛図書館で、それぞれ50袋ずつ用意したところ、毎年、1週間以内に全て貸し出される人気企画になりました。

図書館ホームページ [https://www.city.tondabayashi.lg.jp/site/library/]

市内の全小・中学生には読んだ本の記録ができる読書通帳を配布していますので、読書をする励みや、読書習慣の定着につなげたいと考えています。

## ■大人向きおたのしみ袋

高校生以上を対象に実施したおたのしみ袋は「大人向き本のおたのしみ袋」秋の夜長に」と題して、1袋に2冊の本を詰め込んでおり、テーマには「作家と猫」や「詩歌に触れる」などがありました。



両館で計106袋準備して実施したところ、中央図書館では2週間ほどで全て貸し出され、金剛図書館では図書館ホームページなどにも掲載した効果か、開始日よりわずか5日間で64袋全てが貸し出される好評ぶりでした。

カウンターでは「よい試みだ」といったご意見をはじめ、返却時に「おもしろかったわ!」と声を掛けてくださる人や、おたのしみ袋の本に感動してお手紙をくださった人もいました。

## ★今年も実施します

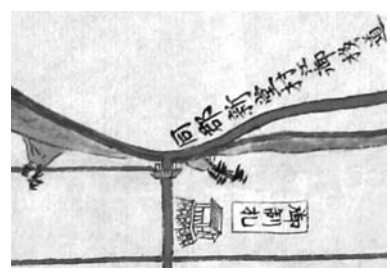
今年の大人向きおたのしみ袋は、10月27日(日)から実施します。両館合わせて100袋をご用意してお待ちしていますので、図書館に来館された際には、ぜひご利用ください。

中央図書館(☎25)4921  
金剛図書館(☎28)1171

# わたしのまちの文化財

## 描かれた富田林寺内町

今年4月、「富田林寺内町絵図」7点を本市で初めての市指定文化財に指定しました。左の写真は7点の絵図のうち天保8年(1837年)作成と考えられる絵図に



描かれた一里山口付近を拡大したものです。一里山口には門が描かれ、その両側にはその名の由来である一里塚が描かれています。一里山口から南に延びる亀ヶ坂筋の東側には御触書を掲示するための高札場が描かれています。

一里山口には「新堂村江御移り道」、向田坂口には「甲田村ヨリ当村江御移り道」と記され、両地点を結ぶ東高野街道が他の道筋に比べてひとときわたい線を描かれています。「御移り道」とあることから、この絵図は幕府の巡見使が通る道筋を示したものと考えられます。

江戸時代、幕府が地方の政治や民衆の状況を視察するために各地へ派遣した役人を「御巡見」と呼び、後に將軍の代替りごとに全国に派遣されるようになりました。

天保8年、徳川家慶が12代將軍になり、翌年2月から全国に巡見使が派遣されました。地元に残る古文書によると、天保9年閏4月21日に富田林村を訪れた一行はここで宿泊し、翌日、東高野街道を通って新堂村、中野村、喜志村の順に訪れたことが分かります。

また、この絵図では一里山口、山中田口、山ヶ坂口、向田坂口の4カ所に門が描かれています。「年中録」(仲村家所蔵文書)によると、天保8年に町内の有力者によって12の門が寄進されており、当時村内12の出入口それぞれに門が作られたことになっていますが、本図作成時には他はまだできていなかったものと思われる。

他の資料と重ねてみることでよって、絵図に描かれた内容からより多くの情報を見出すことができます。

市指定文化財の指定を記念して11月1日(金)から令和2年1月13日(木)まで寺内町センターで富田林寺内町絵図7点全てを公開する展示会を開催します。また、11月9日(土)にTopic(きらめき創造館)で講演会も開催します。この機会にぜひ本市の名前の由来でもある富田林寺内町の江戸時代の姿をのぞいてみませんか。

文化財課(内線507)